

近代日本を創った実業家、「渋沢栄一翁」から数えて5代目。外資系証券でインベストメントバンカーとして活躍してきた渋澤健氏に貿易自由化の是非を聞いた。

\* \* \*

TPPは、早期に決断して参加すべきだと思います。世界中で日本の立場を考えた時に、同じ土台に立てなければ不利になるのは明白です。日本の政治システムは、国内調整を十分に行ってから決断するため、時間という資源を無駄にしています。問題は、技術力や競争力の有る無しではなく、ルール作りに参加できないということ。自由貿易の旗振り役になろうとせぬと思わないのでしょうか。

先日、とある討論番組で、某政治家が「むやみにTPPへ参加すれば食料自給率は下がり、国益を損なう」と発言していました。ただ、ここで国益を考えるのであれば、世界の中での日本の国益を考えるべきです。先進国

の中で、日本の自給率は低く、食料安全保障の問題が取り上げられますが、原油のほぼ100%を輸入に依存している日本のエネルギー安全保障は、放っておいていいのでしょうか。また、自給率の話を持ち出すのであれば、大量に捨てられる食料に目を向けているのかも疑問が残ります。

えなくてははいけません。

日本経済や農業が停滞あるいは衰退している中で、今必要なのは成長分野の創出でしょう。資本が社会で循環するには、成長分野が不可欠です。

金融政策で例えれば、今日の本経済は量的金融緩和政策では解決できない状態です。英語で言えば、ソファアールの上に転がっ

においても同じです。農業を本気でやりたい人に耕作放棄地を提供すれば、自由な発想で新しい農業が生まれる可能性があるのです。

今、世界では、日本食の評価が高まっています。先日、米国西海岸のナパバレーで「World Soft Flavor」という食のプロの大会議が開催され、



**「閉塞状態の日本で最も新陳代謝が必要なのは農業である」**

コモンズ投信会長 渋澤 健

「日本食」がテーマとして取り上げられました。まさに、日本の食文化に世界のトップシェフが注目している証拠です。だとすれば、日本

そもそも、日本農業の将来性を前向きに議論する声を聞きません。TPP賛成派の産業界の声は、貿易自由化によって不安もあるが、現状とは変わるはずという可能性を期待しています。ところが、反対派の論調は「壊滅する」と後ろ向きの声ばかりです。本当に競争力を高めるのであれば、前向きの目線に変

ているジャガイモと揶揄した「カウチポテト」です。つまり、日本は身動きの取れない不健康な患者なのです。そこに、いくら金融という「血液」や財政という「栄養」を投入しても治るはずがありません。必要なのは新陳代謝なのです。日本の資産を動か

の食材をブランド戦略に利用することもあり得ます。ただ、手法だけ真似しても、海外では日本と同じものは作れません。重要なのは、日本の温暖な気候と水があつてこそ作られるということです。新陳代謝をすることで、そうした世界の市場を見据えた農業を展開する人もきっと出てくるでしょう。

(談)